見覚えある風景を見ながら室内散歩

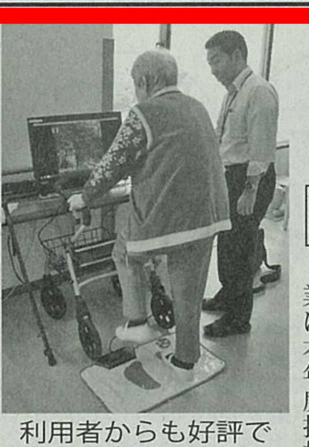
札幌市中央区・円山渓仁会デイサービス

歩行訓練ソフト「あしぶみさんぽ」実用化へ

研究者・IT企業共同事業に現場が協力

「山登りなんて十年ぶりだわ」「この建物を見た記憶があるわ」―。札幌市中央区・円山渓仁会デイサービスは、利用者がモニターの実写映像を見て、室内で楽しみながら歩行訓練できる散歩疑似体験パソコンソフト「あしぶみさんぽ」を導入した。研究者、IT企業が進めている研究事業に介護現場が協力。IT活用の介護予防・機能訓練をテーマに、異なる分野の三者が連携した取り組みで、実用化が期待される。

今回の研究事業は、ノーステック財団の福祉産業共同研究助成事業に本年度採択され、木村泰知・小樽商大准教授、石川睦・想社長が進めている。



利用者からも好評で今後、大画面のテレビに映して活用する予定

「あしぶみさんぽ」は薄いマットの上で足踏みすると、歩く速度に合わせて画面に映し出された景色が変化。すれ違う人が現れるなど、臨場感も味わいながら実際に歩いた気分になれる歩行訓練ゲームだ。画面には歩行時間と歩数だけでなく、左右どちらの足で踏んでいるか映し出され、重心を意識しながら足踏みできるのも特徴。

札幌市内にある円山八十八カ所と小樽市内の市場の二コース用意し、マットを踏んで選択する。コースは順次追加していく予定だ。円山八十八カ所の場合、頂上まで登ると市内を見渡せる絶景が広がり、利用者の達成感を高める工夫も盛り込まれている。

木村准教授は「見覚えのある風景をゲームに取り入れることで高齢者の興味や関心を高め、楽しみながら運動を継続でき、ADL向上につなげることができるのではないか」と説明。

ソフトを開発した想（札幌市白石区）は、同様のソフトを既に開発していたが、「安全面などの改良が必要だった」（石川社長）とし、今回の研究事業では現場の意見を基に改良を重ね、高齢者の体力・心理面などを評価する。

既に、現場からは▼高齢者の一踏みで普通の人が三歩進むくらいの移動が必要▼高齢者が競争心を持てると、取り組む意欲が高まる▼一～二分のコースを用意した方がいい―など、具体的な提案が出されている。

同事業所ではレクリエーションを通した機能訓練、作業療法士を配置して個別機能訓練Ⅱを実施するなど、さまざまな選択肢を用意して対応。木下雄一・円山ハーティケアセンター長は「高齢者は『転びたくない』『自分で歩きたい』と強く願っている。外出気分を味わいながら足腰を鍛え、外出する自信を持つことができ、冬期間も有効に活用できるのではないか」と話し、見覚えのある景色が記憶をよみがえらせ、認知機能向上も期待する。

ゲーム機器開発を手がける大手企業も製品化に向けて前向きな意向を示しており、今後の動向が注目される。

有料ホーム　サ付き住宅

選ぶ際の参考、トラブル回避に

4事業者団体がガイドブック

有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の事業者団体が「高齢者向けの住まいを選ぶ前に―消費者向けガイドブック」=写真=を作製した。

二十三年のサ付き住宅登録制度創設などによる高齢者の住まい再編、有料老人ホームにおける契約トラブル増加などを受け、消費者が住まい選びの参考にできるよう作製。厚生労働省、国土交通省も協力した。

―高齢者向け住まいを選ぶ前に―
消費者向けガイドブック

各住宅の設備や受けられるサービス、契約、支払い方式の違いについて平易な文章で解説。職員配置や資格、夜勤体制、医療・介護ニーズへの対応状況などをチェックすべきポイントとして紹介。

支払い方式別の支払額と返還額のシミュレーションも掲載。前払い方式と月払い方式の比較をグラフで示しながら、消費者自身の状況に合わせた料金プランを検討するようアドバイスしている。

ガイドブックは▼全国有料老人ホーム協会▼全国特定施設事業者協議会▼サービス付き高齢者向け住宅協会▼高齢者住宅経営者連絡協議会―のホームページで公開されている。

「住まい」テーマ

来月10日、介護事業経営フォーラム

ウエルビー

ウエルビーは介護事業経営フォーラム「在宅事業者が取り組む『住まい』サービス～地域包括ケアが求める介護事業者の使命～」を、十一月十日午後一時半から東京都渋谷区・フォーラム8で開く。

シンポジストは、定期巡回・随時対応サービスを併設したサ付き住宅などを運営する香取幹やさしい手社長、宅老所（小規模多機能型居宅介護）と住宅型有料老人ホームなどを手がける大石ひとみわが家社長。コーディネーターは青木正人ウエルビー代表。

▼サービス付き高齢者向け住宅が地域包括ケアシステムに位置付けられた意味▼「住宅」と「介護」のビジネス構造の違い▼有料老人ホームとサ付き住宅の収益構造の違い▼中小企業と大手企業の事業展開―など、介護事業者・医療機関の戦略を議論する。

定員三十六人。参加費九千四百五十円。問い合わせは☎03（5428）5785。

医療機器を装着した在宅療養者支援充実へ

実践的訪問入浴技術学ぶ

民介協道支部　実務者研修

『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会（民介協）道支部は、訪問入浴介護実務者研修を札幌市内で開いた。今後、さらにニーズの高まりが予想される医療機器を装着した在宅療養者に対応できるよう、各事業所が入浴手順を実演。道内各地の実務者が参加し、実践で役立つ知識・技術を学んだ。

現在、道内で訪問入浴の研修を開催しているのは同支部だけで、今回で四回目を迎えた。「医療・介護の連携～在宅での医療機器と訪問入浴介護～」をテーマに行われ、株式会社・有限会社十五事業所、社協六事業所、社会福祉法人二事業所、医療法人一事業所の計二十四事業所・八十七人が参加。申込者で当日欠席はなく、関心の高さをうかがわせた。

研修ではフクダライフテック北海道担当者が「在宅人工呼吸器の取り扱い方」、ジャパンケアサービス看護師が「在宅で使われる医療装着機器」を講義。

三井ヘルスサービスが人工呼吸器を装着した利用者、ジャパンケアサービスが膀胱留置カテーテルを装着した利用者の移動・入浴介助を実演。札幌介護プラザは基本的な手順を説明した。参加者から利用者の体の向きに関する質問が出されるなど、実践の参考にしようと担当者の説明を熱心に聞いていた。

各事業所の入浴手順を一つひとつ確認する参加者（三井ヘルスサービス）

訪問系サービスでは他事業所の実践を見る機会がほとんどないため、実技研修の反響は大きく、二十五年度も実施を検討する考えだ。

10周年迎え記念講演会…東京で

民介協、祝賀パーティーも

民介協は、設立十周年記念講演会・祝賀パーティを東京都内で開いた。

「質の高い介護サービスの提供」を目指し、十四年に発足。介護保険の民間事業者団体として各種研修会・調査研究事業など、さまざまな活動を展開。本道を含め全国八ブロックに支部を置き、研修会などを開催している。会員は約四百五十社、道内は約百二十社と全国で最も多い。

設立十周年記念講演会は、堀田力さわやか福祉財団理事長が「利用者の尊厳と満足～優しければいいのか～」と題し、介護事業者のあるべき姿などを説明。祝賀パーティでは原勝則厚生労働省老健局長、吉田静滋シルバーサービス振興会常務理事らが来賓あいさつした。

「デイは共生型拠点に」

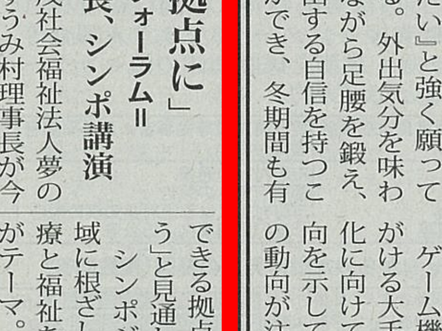
=豊生会グループフォーラム=

藤原理事長、シンポ講演

東苗穂病院などを運営する札幌市東区・医療法人社団豊生会は「第三回豊生会グループフォーラム」を開いた=写真=。

シンポジウムでは、藤原茂社会福祉法人夢のみずうみ村理事長が今後の通所系サービスについて、「デイケアは要介護者を対象とし、デイサービスは共生型施設として住民も利用できる拠点になるだろう」と見通しを示した。

シンポジウムは「地域に根ざした豊かな医療と福祉を創造する」がテーマ。藤原氏は障害や疾患の有無にかかわらず、子供から高齢者まですべての住民が「普通のこと、当たり前のことを繰り返し、無意識に動作できる支援」の必要性を指摘。


第3回 豊生会グループフォーラム
命の授業

こうした理念を実現するため、国のモデル事業として共生型通所介護施設を世田谷区にオープンする予定として、子育て中の母親からシルバー世代まで、誰もが気軽に立ち寄って交流し、役割や生きがいを持ちながら支え合う場とする考えだ。

本年度スタートした介護予防・日常生活支援総合事業を踏まえ、「介護予防は住民まで対象を広げた取り組みになり、自治体が実施する流れになるだろう」と述べた。

来月21日に能力開発啓発セミナー

札幌で

介護労働安定C道支部

介護労働安定センター道支部は介護の日（11月11日）・福祉人材確保重点実施期間（11月4日～11月17日）関連行事として「能力開発啓発セミナー」を、11月21日午前10時から札幌市産業振興センターで開く。

道高齢者向け住宅事業者連絡会会長、道社会福祉士会・札幌市介護支援専門員連絡協議会相談役を務める奥田龍人シーズネット副理事長が「地域包括ケアとこれからの介護事業所『認知症ケア・看取りケア・人材難を連携力で対応しよう』」をテーマに講演。

「連携力」をキーワードに、住まいでの看取りや介護予防、保険外の生活支援なども含めた取り組みをアドバイスする。

定員50人。受講無料。申し込み締め切り11月7日。

12月に介護福祉士国試対策・模試

同支部は介護福祉士国家試験対策・模試を、12月22日午前9時から同会場で開く。

日本介護福祉士会の全国統一模試を活用。模試終了後、自己採点を行い、講師がポイントを解説する。

定員30人。受講料5000円。申し込み締め切り今月22日。問い合わせはいずれも同支部☎011（219）3157。